

平成28年度

(公社)日本ホッケー協会中学校部会

第1回常任委員会議事録



期 日:平成28年5月21日(土) 13時00分～

会 場:岸記念体育会館 4F特別会議室

〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1

参加者(敬称略)

中学校部会会長:木口秀一(秋田県:羽後中学校長)

日本ホッケー協会 常務理事:瀧上 正志

中学校部会事務局長:馬場治男(埼玉県:高麗川中学校)

会計:北島沙紀(埼玉県:美杉台中学校)

事務局:久保克敏(京都府:蒲生野中学校)

常任委員:大嶋寿美(関東) 倉脇邦子(北信越) 日高和広(東海) 鈴木良子(近畿)

道端良之(中国) 岩尾幸美(九州)

U-16 海外遠征事務局:幸田伸也(奈良県:榛原中学校)

H28 年度全中大会事務局:平柳昌樹、西田 隆

常任委員会

・構成員:15名

・出席者:12名

規約 第6章 第19条に

則り本会は成立

文責:久保克敏(事務局)

1 開会

2 あいさつ

会に先立ち、木口秀一中学校部会長(秋田県羽後中学校長)にご挨拶をいただく。
次に、日本ホッケー協会常務理事の瀧上様よりご挨拶をいただいた。

3 協議事項

(1) 第46回全日本ホッケー選手権大会・・・・・・・・・・・・(大会実行委員会)

・「実施要項」「会場関係」その他の検討

別刷資料あり

実施要項は6月中旬には、中学校部会HPにより掲載予定

今年度より、マナー宣誓書を監督が提出をする。

・宿泊・弁当要項について

羽後交通観光の高橋様に来ていただき、説明を受ける。

・各ブロック参加枠数の決定

全国大会内規に則り、昨年度12月末時点の登録チーム数(ブロックまたは県予選に参加をしているチームで「個人登録料」を支払っているチーム数による比例配分により参加枠を決定した。

	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州	開催枠	合計
男子	0	3	5	4	1	5	3	1	1	1	24
女子	0	3	4	5	1	5	3	1	1	1	24

- ・全国大会シード権（組み合わせ抽選）及び決勝トーナメントの組み合わせ抽選の再確認

シード権については、昨年度は 9 チーム（東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州の各ブロック 1 位+開催県）をシードしていたが、今年は四国ブロックが予選をおこなわない関係で四国ブロックをシード扱いをしない。

決勝トーナメントの組合せについては、昨年度より全ての予選リーグの試合が終了した時点で抽選を行った。今年もこの方法でおこない、問題がなければこの方法を今後も取り入れていく。（内規事項に入れる）

参加枠数の割り振りについて、昨今の少子化に伴うチーム数減少などを考えると、今までのルールで行っていくことが必ずしも良策とはいえなくなってきた。この現状から、常任委員会もしくはプロジェクトチームを設け検討していくことが必要であるという方向性が示された。

(2) 平成 27 年「事業報告」「収支決算報告」・・・・・・・・・・・・・・（会計）

資料 3、4

会計より報告

(3) 平成 28 年度中学校部会役員（案）・・・・・・・・・・・・・・（事務局）

資料 5

- ・ 2 年任期を基本とするが、人事の都合などでその通りにはなっていない
 - ・ 会長・・・今年度全中大会開催地(秋田県羽後中)より木口校長にお願いする。
 - ・ 副会長・・・次年度全中大会開催地(大分県このえ緑陽中)より森山智紀校長にお願いする。
 - ・ 事務局会計・・・長年お世話になった戸口先生がお仕事の関係でできなくなり、かわりに美杉台中学校：北島沙紀先生にお願いをする。
 - ・ 常任委員、専門委員の交代について確認
 - ・・・東海ブロック常任委員を今年度より変更
 - ・・・関東・九州ブロックの専門委員の変更
 - ・ 四国ブロックは現在香川県ホッケー協会の川原さんに連絡役をいただいている
今後も四国ブロックが継続的に全中参加が可能であれば、常任委員（綾南・協和・塩江中学校の顧問の中より）を選出する。

(4) 中学校部会規約・・・・・・・・・・・・・・（事務局）

資料 6

- ・ 難しい判断が迫られる場面に度々直面するが、判断の基準は

第 2 章 目的
第 3 条「本会は（日本中学校体育連盟規約に従い日本ホッケー協会と協力して）ホッケー競技をとおして体育の振興と、中学校体育の健全な発達を図ることを目的とする。」

となる。
つまり、当部会は、義務教育である中学校の活動であることが大原則であることから「学校管理下」と認定できるか否かが重要なポイントになる。

(5) 平成 28 年度「事業計画(案)」「収支予算書(案)」・・・・・・・・・・(事務局)

= 「事業計画」 =

資料 7, 8

- ・ブロック大会日時と会場の確認
- ・常任委員会(第 2 回)の日程・場所の確認

平成 29 年 2 月 25 日(土) 場所：未定

= 「収支予算書」 =

H27 年度はターゲットエイジによる補助金(200 万)等が出た。平成 28 年度は JHA より 200 万円の補助金が出る予定(海外遠征に向けて)

- ・全中大会補助金：80 万
- ・U16 海外遠征補助金：200 万

(6) 中学校部会協力金「個人登録料」の納入について・・・・(会計)

資料 9

= 個人登録料を始めた経過 =

- * H24 年度全国委員会(H24.8.17.)において、今後も継続的に U16 海外遠征を続けていくにあたって、引率スタッフの自己負担を軽減するための補助金として、中学校部会「協力金」の値上げすることで同意を得た。
- * なお、具体的な金額等について検討(H24 第 2 回常任委員会、H25 第 1 回常任委員会にて)した結果、選手 1 人に対して登録料として協力してもらうことが、公平感があり良いという結論に至った。
- * H25 年度全国委員会(8/16)にて承認され、中学校部会として登録料を徴収することとなった。

* 平成 28 年度の「登録料」徴収について

- 1) 各常任委員から、ブロック内各チームに「個人登録料」の納入について連絡
- 2) 併せて、常任委員は、ブロック内各チームの 6/1 現在の部員数を調査し事務局に報告 ※報告先=事務局会計：北島 および 事務局：久保
- 3) 別紙「資料 9」の要領にて、各チームは 6/30 までに登録料を納める
- 4) 各常任委員は、納入の滞っているチーム等に催促をする

(7) 全国大会内規事項・・・・・・・・・・(事務局)

- ・合同チーム編成条件の再確認

資料 10

北海道の参加はなし

- ・H28 年度以降の全中大会開催地について

H29：大分県開催に決定

(昨年度事務局で大分県ホッケー協会及び地元(玖珠町・九重町)へご挨拶)

H30：四国ブロック・・・島根県開催で決定

H31：近畿ブロック・・・滋賀県が意思表示

今年度中に滋賀県に事務局より正式に打診

(8) 合同チームの承認について (事務局)

・男子10(昨年7)チーム、女子6(昨年7)チームが申請

《申請状況5月14日現在》

ブロック	男 子	女 子
東 北	○青森(堀口5・第一3)	○青森(堀口5・第一2)
関 東	○埼玉(飯能第一3・加治5・野田2)	○埼玉(飯能第一2・加治3・飯能西4)
東 海	○岐阜(蘇原8・中央4)	
北信越	○富山(石動・10蟹谷4) ○新潟(巻東9・坂井輪3・西川1)	
近 畿	○兵庫(丹南17・篠山3)	○兵庫(篠山7・丹南3)
中 国	○山口(玖珂11・高森みどり2)	○山口(玖珂5・高森みどり2)
四 国	○香川(綾南6・塩江1*・協和1*)	○香川(綾南6・協和1*)
九 州	○佐賀(伊万里4・啓成2) ○大分(ここのえ緑陽5・北山田1・玖珠1)	○大分(ここのえ緑陽7・北山田1)

※校名後の「*」印は同一市町村でない学校

* 学校長の承認は必要 . . . 学校管理下による大会実施を守る

* 教員による引率は必ず必要である

* 合同チームとして認められる範囲は . . . 活動実績のある3チームまで

* レンタルによる合同チームについては、現状では全国大会については認めることはできない。



常任委員会で確認・承認を取ることができたので、各ブロックの常任委員よりその旨を学校に伝えることを確認

(9) 競技部・審判部より (競技部：馬場、審判部)

平成28年度の6人制ルールの変更点について(再確認)

- ・ハイステックについて
- ・ロングコーナーの再開位置について

(10) 第17回都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会

- ・この大会は協会の主催大会であり、監督については「日本体育協会公認コーチ」の資格を取得しているものであること。

(11) ジュニアユース U16 日本代表チームについて・・・・・・・・・・(遠征事務局：幸田)
・選考会について

日程：平成 28 年 9 月 17 日（土）18 日（日）19 日（月：祝）
場所：栃木県日光市ホッケー場、今市青少年スポーツセンターホッケー場
宿舎：青少年スポーツセンター

遠征スタッフ・選考スタッフについて

選考スタッフ {
・海外遠征スタッフ
・中学校部会役員（事務局、常任委員）
・(NTS スタッフ)

《選手の選考について・・参加の条件》

*高校でホッケーを続ける確かな意思がある 3 年生

*将来、教員としてホッケーの指導に携わる意思のある 3 年生

の条件を満たし、かつ下記 (①～③) のいずれかに該当する 3 年生

①地区ジュニアユース代表者

②全中大会優秀選手

③監督推薦（ホッケーだけでなく、学校生活も含めて推薦できる選手）

各地区優秀選手の選考基準について

*昨年度と同じ方法で実施をする。

=選考方法の確認=

・NTS の趣旨に則り、3 つの地区（東・中・西）で代表選手（優秀選手）の選考を行う

・全中大会ブロック予選で各ブロックが組織的に選考 ～ JHA に上程する。～

有望な選手の早期発掘と U-16 日本代表の 1 次選考の場、
そして、何よりも選手のモチベーションが高まることを期待し実施をする。

=選考方法=

・各ブロック男女 10 人程度（ブロックにより人数の多少有り）

・NTS の趣旨により、学年は制限をしないで選考をする。(U-16 選考会と区別をする)

・選考された選手の名称「東（中・西）日本ジュニアユース代表」とする。

・選考された選手には、「認定書」を授与する。

※認定書の作成は、常任委員で行う。

・選ばれた選手は、9 月に行われる「U-16 ジュニアユース日本代表選考会」に優先的に参加できることとする。(ただし 3 年のみ)

遠征の概要 ～現時点でわかっていること～

・11 月下旬から 12 月上旬でオーストラリアのパスを予定

4 その他

- ・平成 28 年度の JHA の強化費について

日本ホッケー協会財務担当の瀧上様より、今年度の JHA の強化事業（財源内訳）の説明があった。ジュニアユースに 200 万円の予算が付いた経過報告をいただいた。

今年はリオオリンピックが開催され、ジャパン女子（さくらジャパン）が出場することもあり、多くの予算がシニアに使われている現状があるが、ジュニアユースにも今後は目を向けていただき強化をすると報告をいただいた。

- ・ブロック大会結果の HP へのアップについて

各ブロック大会が終了したら、各ブロック常任委員の方で速やかに中学校部会 HP にアップをする。

地区代表選手（東・中・西）の選考結果は、NTS スタッフが事務局までデータを送信し、事務局よりアップをする。

認定書については、ブロック大会の閉会式などで渡してもらう。

- ・全中大会優秀選手について（選考方法など）

全中優秀選手の選考方法については昨年度のものを踏襲することで確認をした。

また、最優秀選手に選ばれた選手及び指導者には JOC の研修が義務付けられていることを確認した。

5 閉 会

日本ホッケー協会理事兼中学校部会事務局長の馬場治男様から閉会のご挨拶をいただいた。